（２）ファミリーサポートセンター事業

Q.秋本議員：ファミリーサポートセンター事業は、子どもの年齢が生後０ヶ月から利用可能ですが、生後3ヶ月未満については、保護者は子どもを預けて外出等をする場合は利用できません。しかし、そうしたサポートを必要とする利用者もいると思いますが、保護者がそばにいることをサポートの条件としている理由を伺います。

Q.秋本議員：ファミリーサポートセンター事業は、ボランティア活動を基本とした運営で、事業のさらなる充実には、援助会員を増やしてくことは不可欠であると考えます。

　3月末現在でのファミサポ会員数は、利用者数は２１００名、それに対して、子どもの面倒を見てくれる援助会員数は６２５名、両方に登録している方が６２名です。需要に対して供給の数は3分の1以下になります。

　援助会員になるための講習会は、各区、年一回の開催で、三日間受講しなければならず、まとめて参加するのは難しいとの声も聞かれます。運営等、柔軟に対応していくべきと考えますが、見解を伺います。

A.答弁：

［要望］

　私事ですが、4月に初孫が生まれました。生んだのは私の長女で、二十歳の大学2年生です。大学に通わなければならないので、授業を受けている間、面倒を見てくれる人が必要になったわけです。生後3ヶ月未満の乳児を保護者同伴でなくても面倒を見ていただきたかったので、市のファミサポではなく、民間のNPO法人に所属している方々にお世話になることにしました。非常に助かっております。

このような実体験からファミサポの将来への課題が見えてきました。

ファミサポでは1名の利用者に対して1名の援助会員の紹介ですが、現在、孫は地元の４名のボランティアママさんたちがチームをつくり、1日３～４時間、週2回～4回程度で、主婦業やパート等をしている女性の方々に都合の良いペースでシフトを組んで見ていただいています。また、一方で、利用者が求める条件と合わず、せっかく講習も受けて、援助会員に登録をしたのに、何年経っても依頼が来ないという話も聞きます。非常にもったいないな、と感じます。複数人での対応が可能になれば、こういった課題もクリアーされるケースも多いのではないでしょうか。

　また、3ヶ月未満の子どもの利用についてですが、核家族化や両親の共働き世帯の増加、その他の事情から、出産直後からサポートが必要な方々は増加していくものと考えられます。潜在的に存在する方々が、これなら産むことができると思える、更なるきめ細やかにニーズに応えられる制度を今後も検討し、取り組んでいくよう、併せて要望します。